

浜田市学校図書館活用教育研究指定校  公開授業 研究協議	音楽科  平成 28 年 1 1 月 2 1 日 (月) 音楽室
研究の視点  ①図書資料を用いて俳句を選び歌詞をつけたことは、思いや意図をもって表現を工夫して旋律をつくることに有効であったか。 ②音楽表現を工夫するための教師の支援、価値付けは適切であったか。 (見通しの示し方や振り返りの仕方も含めて)	

●①について

- ・俳句は情景をイメージしやすいので、写真やイラストの入った資料を使ったことはよかったのではないか。
- ・ワークシートに工夫があり、どんな旋律にしたいかなどイメージをしっかりと書き込んである。前時の学習が活動につながっている。
- ・生徒それぞれが別々の俳句を選んでしたが、同じ俳句を選んでも思いや工夫するポイントによっては異なる旋律に仕上がる、というような気づきがあっても面白かったのではないか。
- ・俳句ではあるが、歌を味わうときにメロディと歌詞のそれぞれがとても大切な要素であるということに気づけた。

●②について

- ・ビバルディの四季を例に出して以前の学習を想起させたのはよかった。春でなく、秋や冬でもよかったかも知れない。また、言葉の抑揚についても例を挙げ、手がかりが丁寧に示されていた。
- ・目標を示すと共にふり返りを示すのは見通しがもてるのでよい。13分は長いかな？
- ・一人一台キーボードがあり、歌いながら旋律をつくるのは効果的だった。
- ・個別に巡回し、イメージを音につなげるための声かけが的確だった。
- ・R君の2小節目の悩みを全体で取り上げたのはよかった。
- ・中間発表だが、部分的な発表だけでよかっただろうか？俳句をどう読んだか、どんな旋律をつくりたいかを伝えてから発表すればよかったのではないか。
- ・メロディをつくる側の視点はあったが、聞く側の視点がないので感想が具体的にならなかった。
- ・生徒同士の関わりがもう少し見られるとよかった。
- ・先生からのアドバイスをうけてお互いに指摘できるとよかった。

### ●③その他について

- ・学校司書と音楽科でコンタクトがきちんととれてよかった。
- ・便覧を資料にしていたが、古い物だったので確認をする必要があった。
- ・資料を集める際に、手続きが煩瑣な部分があるので、改善されないだろうか。

### ●指導助言●

〈北川 史信 指導主事より〉

- ・俳句を使うことで言葉とメロディの結びつきがイメージしやすかった。
- ・自分が取り組んだことが最後に形になる、という実技教科ならではの達成感が味わえた。
- ・普段聞いている音楽やCMソングなど、音や言葉の工夫があることに気づいたのではないかな。
- ・もっと子ども同士で関わり合って相談できればよかった。小学校では複式でやってきている生徒たちなので、子どもに任せる姿勢があってもよいのではないかな。ただし、男子生徒には配慮することが必要。

〈澤田 出 指導主事より〉

- ・「つなぐ」実践の積み上げができています。図書館一教科
- ・質の高い学び、言語活動につながる学びができています。
- ・学校間の資料交換、相互貸借については今後の課題としてやっていきたい。

〈小室 淑子 指導主事より〉

- ・音楽科では4つの領域があるが、歌唱に偏りがちである。鑑賞、創作にも力を入れたい。教師側の教材研究が大切である。
- ・ある程度制約（条件）を作ると発想がしやすくなる。発想が豊かな生徒はその檻から出るような創作をすることがあるが、またそれが輝くものだったりする。どの子も輝ける。
- ・日本の音楽については、教師側も苦手意識があり抵抗感をもつ者が多い。しかし、あえて生徒と一緒に学び自分自身も主体的に取り組むことが大切である。山田先生の学びやそのプロセスも生徒と共有すればよい。ぜひつくったモデルを生徒に示してほしい。
- ・もし生徒たちが同じ俳句を使ってこの活動をするのであれば、資料に絵や写真がないほうがよい。個々の描くイメージが異なる方がよい。
- ・旋律と言葉の抑揚がどのようにマッチしているかを切り口にするなら、例えば「かきねのかきねの まがりかど（たき火）」の歌詞に音の ↗ ↘ を書いてみるとよい。
- ・手立てをたくさん子どもに渡していた。教師の声かけや作品の提示は、子どもたちの作品のできあがりに関わってくる。作品の予想をたてておけば、子どもたちのつまづきが予測され、また理解することができる。
- ・子どもの思いは自分の言葉で言わせることが必要。